



生徒指導の3機能を具現化するための 教師の手立ての検討と実践

1学期の学校訪問で、全ての教育活動に「生徒指導の3機能」を生かした実践をしているという学校が多くみられました。実践をさらに進めるために、教師の具体的な手立てを校内で検討し、共通実践していくことが重要だと考えます。

【小松市立蓮代寺小学校の実践】生徒指導の3機能を生かした学級づくりと授業づくり

(1) 生徒指導の3機能を生かした温かい学級づくり



生徒指導の3機能を生かすための具体的な手立ての共通理解・共通実践

	教師の手立て	教師の声かけ
自己決定の場	<ul style="list-style-type: none"> 指示するのではなく、自分で考えて決めさせる。 判断に困っている場合は、選択肢を与えたり、教師の思いを伝えたりする。 自分で決めたことは責任を持たせる。 子ども自身がよりよき言動に気づき、修正を促すメッセージを使う。 いろいろな活動に、ねらいや目的意識をもって取り組ませる。 係活動や委員会等で、児童が自ら気がつき、行動する経験を多く積ませ、価値づける。 1日1回は、自分の思いや考えを伝える場を設ける。 	<p>「あなたは、どう思うの」 「あなたは、どうしたいの」 「1・2・3のうちどれ？その理由は？」 「先生はこう思うけど、君は」</p> <p style="text-align: right;">アイメッセージ</p> <p>「私は、今、とても話にくいんだけど…」</p> <p style="text-align: right;">アイメッセージ</p> <p>「あれ、学級のルールは何だったかなあ」</p> <p style="text-align: right;">確認の質問</p>
自己存在感	<ul style="list-style-type: none"> 児童が話しかけてきたときには、手を止めて最後まで話を聞くように心がける。また、気になる児童には意識して話しかける。 1日1回は認める声かけをする。 一人一人のよい言動を見逃さず、褒め、価値づける。 一人一人のよさを伝える場を設ける。 (ノートのコメント、学級通信や帰りの会での紹介等) 学校生活や委員会活動等で、その子に応じた活躍の場や責任を持たせる場を与える。 	<p>「……しているね」「ありがとう」 「うれしい」「たすかった」</p> <p style="text-align: right;">アイメッセージ</p>
共感的人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 「ふわふわ言葉」をなじませるために、教師自ら見本を見せていく。 友だちの話を肯定的に聞くというスキルを全ての活動で育む。 いろいろな価値観にふれさせ、互いを認め合えるようにしていく。 朝の会や帰りの会で、お互いのよさを認め合える活動を取り入れる。 思いやりのない言動は見逃さず、すぐに考えさせる。 	<p>「ありがとう」「ごめんなさい」 「おはよう」 うなずく、拍手、「すごい」「なるほど」</p> <p style="text-align: right;">受容のスキル</p> <p>「みんなちがって、みんないいんだね」</p>

生徒指導の3機能を生かした学級づくりの重要性を全教職員で認識し、具体的に教師は何をしていくか、どんな声かけをしていけばいいのかを、共通理解し、共通実践しています。教師の手立て・声かけまでを具体的に検討してこそ、共通実践につながると考えます。

その他、QUアンケート実施後に、各学級での具体的な対応策(手立て)を全教職員で検討していますし、隔週火曜日の朝自習を「れん友タイム」とし、全校でSSTとエンカウンターを計画的に実施するために年間指導計画を作成し、児童のよりよい人間関係づくりを構築しようとしています。

(2) 生徒指導の3機能を生かした子どもたちが活躍できる授業づくり

授業に生徒指導の3機能を生かすための教師の自己点検カード		★は重点項目
自己 決定 の 場	1	ゴールを明確化し、学習の見通しを持たせる
	2	自分の考えを持つ場、思考する場を設定する
	3	★自分の考えを書く場を設定する
	4	自分の考えを伝える場を設定する
	5	★思考をゆさぶる発問を工夫する
	6	振り返りや次の学習を考える場、学んだことを生かす場を設ける
自己 存在 感	1	わかる・できる授業を工夫する
	2	「よくできたね」「がんばっているね」などの褒める・励ます・認めるなどの言葉をかける
	3	考えを交流し、お互いの考えの違いに気付かせる
	4	自分の考えの理由や根拠を明確にさせる
	5	発言が少ない児童への心配りをする
共 感 的 人 間 関 係	1	よい言動を褒め、好ましくない言動は正す
	2	間違った応答に対して、冷やかしたり笑ったりしないように指導する
	3	友だちの意見にうなずいたり、拍手したりするように促す
	4	教師主導にならず、児童の思いにそって授業をする
	5	相互評価を取り入れ、お互いのよさを認め合えるようにする
	6	★発言をつなげ、集団での学び合いとなるようにする
共通	1	3機能のねらいに応じて、ペア学習・グループ学習を取り入れる

授業がんばりカード (児童用)	
1	めあてをもって、授業に取り組んでいる
2	自分の考えを持つ
3	自分の考えを書く
4	自分の考えを、友だちに伝える
5	ふり返りを書く
6	友だちの考えを自分の考えと比べて聞く
7	自分の考えのわけや理由を話す
8	間違ったり失敗した友だちを笑ったりひやかしたりしない
9	友だちの意見にうなずいたり、反応したりする
10	友だちのよいところを、いろいろな場面で見つける
11	みんなで学び合えるように、話し方名人や聴き方名人の言葉を使っている
12	ペアやグループで話したり聴いたりする



生徒指導の3機能を授業に生かすための「自己点検カード」を作成し、毎月、全教職員が授業を振り返り、授業改善に生かしています。重点項目をしぼり、それぞれの具体的な手立ても検討しています。
 (※毎月、全教職員の状況を点数化し、平均を出すことで、学校全体の状況を確認もされています)
 また、児童に「授業がんばりカード」を示し、めざす授業像を教職員と児童が共有することを大切に、児童の立場に立った授業改善を推進していこうとしています。
 さらには、Q Uアンケートの結果を受けて、自尊心や学習意欲の低い子に配慮しながら、授業に取り組んでいます。学級集団と個を大切にしたい実践だと考えます。